

箕面市立病院 経営強化プラン(第四次経営プラン)【概要版】

1 計画策定にあたって

策定の背景

- 総務省の「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、当院が地域において果たすべき役割・機能を明確化、最適化するために策定する。

計画期間

- 2024年度～2027年度（4年間）

2 箕面市立病院の現状

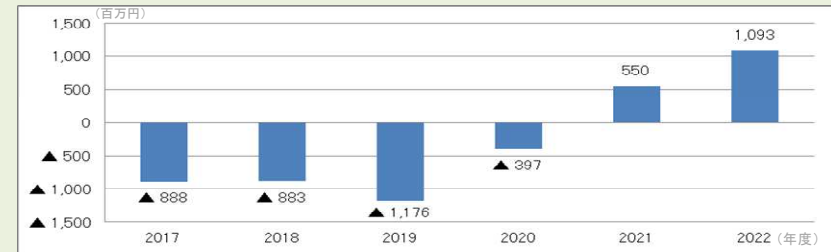
豊能医療圏の状況

- 豊能医療圏の人口推移は2025年の約105.4万人、箕面市は2030年の約14.2万人をピークに、その後減少する予測。一方、高齢者（65歳以上）人口は、豊能医療圏・箕面市ともに2050年まで増加し続ける予測。
- 豊能医療圏の病床数は、高度急性期病床は充足しているが、急性期病床や回復期病床、慢性期病床が不足する状況。

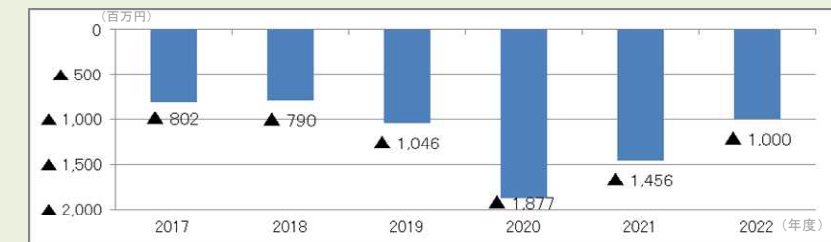
区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計
現状病床数(2022年7月1日時点)	2,138	3,608	1,128	2,113	17	9,004
2025年における必要病床数	1,436	4,044	3,577	2,421	-	11,478
差し引き	702	▲436	▲2,449	▲308	17	▲2,474

当院の現状

- 入院患者・外来患者ともに2020年度の新型コロナウイルス感染症の影響で減少、以降は微増し横ばい。
- 紹介率は増加傾向にあり、逆紹介率は新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少に伴い減少し、現在はゆるやかに回復。地域医療支援病院として、紹介率50%、逆紹介率70%以上を維持。
- 経常損益は2020年度まで赤字、2021年度からは新型コロナウイルス感染症対策関連の補助金により黒字。



- 医業損益の赤字は2020年度をピークに、徐々に改善。



3 経営強化プランの内容について

役割・機能の最適化と連携の強化

- 地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能
 - 高度急性期医療、救急医療、小児医療、災害医療や新興感染症に対応し、大阪府がん診療拠点病院として、地域医療体制の構築と安全で質の高い医療を提供。
 - 回復期リハビリテーションは医療圏内の他医療機関と連携。
- 地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割・機能
 - 地域医療支援病院として、医師会や歯科医師会、薬剤師会と定期的に情報交換を行い、必要な連携を適切に実施。
- 機能分化・連携強化
 - 現病院にあっては、「箕面市病診連携懇話会」や、「箕面市立病院地域医療・介護連絡会」などを通じて地域の医療機関等と良好な連携関係を構築しており、指定管理者制度移行後も強化を図る。

- 医療法人協和会 協和会病院との「再編統合」により新病院整備。

＜新市立病院病床案＞

	現 行		合 計	増 減	再 編 統合後
	箕面市立病院	協和会病院			
高度急性期	93		93	0	93
急性期	174	59	233	▲64	297
回復期リハビリ	※50	86	136	▲136	0
地域包括		38	38	▲38	0
慢性期		118	118	▲118	0
合 計	317	301	618	▲228	390

※特定病床のため継続不可

医師・看護師等の確保と働き方改革

- 医師・看護師等の確保
 - [医師]大学との連携をより強化することにより医師を確保。
 - [看護師等]多様な雇用形態での採用に加え、指定管理者制度移行の際は支度金および生活支援金の補助制度創設により確保を強化。
- 臨床研修医の受け入れ等を通じた若手医師の確保
 - 臨床研修病院として、ER研修などのプログラムの実施により定数6名を確保。新病院では症例数増加によるプログラム充実を図る。
- 働き方改革への対応
 - 医師の労働時間の短縮・タスクシフトの推進・カンファレンス等の勤務時間内開催等により働き方改革を推進する。

経営形態の見直し

- 指定管理者制度に移行し、2025年4月から運営開始予定。

新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組み

- 本年度中に大阪府と感染症対応に係る医療措置協定を締結予定。また、新病院では病室の全室個室化、救急車両・患者動線の分離等を図る。

施設・設備の最適化

- 施設・設備の適正管理と整備費の抑制
 - 新病院の建設にあたり、CM業者の支援を受け、「基本設計からのDB方式」により整備。
- デジタル化への対応
 - 新病院に向けて、遠隔技術を用いた医療支援など、病院でのDXについて検討。

経営の効率化等

- 2024年度までは市直営で運営し、2025年度以降は指定管理者の医療法人協会による運営を前提とする。移転後の新病院開院までは、現病院での運営となり、各指数の改善は困難。
- 指定管理者制度移行後は、民間医療法人の経営ノウハウを活かし、新病院移転後は2030年度の黒字転換を目指す。

[経常収支比率・修正医業収支比率の数値目標]

指標	2023 見込	2024	2025	2026	2027
経常収支比率	85.7	91.3	91.5	94.3	93.9
修正医業収支比率	81.6	89.2	92.9	97.2	97.2

目標達成に向けた具体的な取り組み

- 指定管理者制度移行前の取り組み
 - 2021年度に策定した「第四次箕面市立病院改革プラン策定に向けた経営改善策の検討報告書」を基に、その後に生じた医療需要にも対応して改善活動に取り組む。
 - ※ロボット手術センター・人工関節手術センターの設置による手術実施体制の充実、入退院支援体制の充実などによる収益確保
 - ※後発医薬品採用の拡大、薬品や診療材料の共同購入の拡大などによるコスト削減

指定管理者制度移行後の取り組み

- 民間の経営ノウハウを取り入れ、診療科の新設などの取り組みを行う。
- 箕面市立病院指定管理者評価委員会において経営の評価を行う。

経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

科目	2023 見込	2024	2025	2026	2027
病院事業収益	8,854	9,280	7,805	8,254	8,254
入院収益	5,258	5,950	5,064	5,361	5,361
外来収益	2,665	2,674	2,154	2,297	2,297
その他医業収益	305	316	219	228	228
(医業収益小計)	8,228	8,940	7,437	7,886	7,886
医業外収益	626	340	368	368	368
(再掲)一般会計負担金・補助金	421	333	333	333	333
病院事業費用	10,223	10,184	8,533	8,748	8,792
給与費	5,630	5,204	4,825	4,825	4,825
材料費	2,042	2,145	1,685	1,787	1,787
委託費	899	954	820	829	829
設備関係費	668	742	168	168	168
経費	655	803	491	491	491
研究研修費	29	32	16	16	16
資産減耗費	2	2	-	-	-
(医業費用小計)	9,925	9,882	8,005	8,116	8,116
医業外費用他	298	302	528	632	676
収支差	▲1,369	▲904	▲728	▲494	▲538